

令和7年度 七飯町立七飯中学校 学校経営の基本方針
～ 本校のめざす資質・能力を育成するために ～

令和7年4月1日

1 はじめに

本校はこれまで学習指導要領の趣旨を踏まえ、育成をめざす資質・能力を明確にし、重点目標の共通理解の下、教職員一丸となって取り組み、一定の成果をあげてきました。このことを踏まえ、さらなる高みをめざしたいと考えています。

本校が重要と考える「学力」とは、「学校卒業後の人生において、様々なことが薄れゆく中で、なお残ったもの」であり、実生活・実社会において「生きてはたらく力」のことです。子ども達が豊かな人生を送り、社会自立を果たし、誰もがウェルビーイングを追求できる基盤を作ることこそが学校の責務であると考えています。

また、昨年度まで道の指定を受けて進めてきた「学校力向上」の取組につきましては、その成果を踏まえて各取組を継続します。

さらに、文部科学省の指定事業である「インクルーシブな学校運営モデル事業(以下：インクルーシブ事業)」は、2か年目を迎え、さらなる深化が期待されています。七飯養護学校と本校を中心に、近隣小学校や高等学校と連携を広げていきます。そして、本校では「特別支援教育」はすでに「特別」なものではないと考え、「支援教育」「支援学級」と呼称するとともに、従前の校内支援委員会の機能充実を図ります。本校の考えるインクルーシブ教育は、「等身大」で取り組み、「一般化」できること、つまり「当たり前」になることをめざします。

本校がこれまで培ってきた「自走し、支え合う組織」「学年担任制」「令和の日本型学校教育を踏まえた授業」「校内研修のあり方」「ガイドラインに即した部活動」「時短から質の改善を意識した働き方改革」など、持続可能で先進的な取組は継続します。従前と比較し、業務の精選と焦点化を図った学校運営のイメージを「コンパクト・スクール」と名付けました。重点教育目標が、様々な活動に浸透し、教職員のみならず生徒からも発せられるような環境を整備していきます。

2 学校教育目標

- | | |
|--------------------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 自ら考え 主体的に活動する生徒 | Smart |
| <input type="checkbox"/> あたたく相手をも認め 高め合う生徒 | Respect |
| <input type="checkbox"/> 夢や目標に向かって 挑戦する生徒 | Challenge |
- 令和5年4月制定

3 学校経営の基本的な理念

〈基本理念〉

「対話とリスpekt」を重んじ、令和にふさわしい学校教育を実現します。
～ インクルーシブ社会の創り手を育むために ～

【令和6年度の成果と課題】（教員研修より）

本校の教職員は、「子どもを主語に」を合言葉に、数多くの自己決定場面を設定し、自走する生徒の育成に努めてきました。また、各行事において、縦割り班を活用し、主体的でありながら他社意識をもたせた活動は、教職員にも生徒にも手ごたえのあるものとなっています。とりわけ、学校教育目標「自ら考え 主体的に活動する生徒」「あたたかく相手を認め 高め合う生徒」は、重点教育目標を核に概ね達成されつつあるものと評価しています。

一方、課題として、「もっとわかりやすく、他者を意識した発信力」「実生活で生きてはたらく力」「見通しをもって自律的な学びと生活する力」には、改善の余地があると考えられています。そこで、教職員間で共有する「発信する力」の再定義と自己決定場面の具体については、議論していく必要があります。そして、学校教育目標の「夢や目標に向かって 挑戦する生徒」については道半ばであると思われまます。

4 本校が育成を目指す資質・能力（令和7年度の重点）

「発信する力」を磨き、自己実現をめざします。

【設定の理由】

- ① 「発信する力」を身に付けさせるといった目標が、他に必要な「資質・能力」を牽引し、一定の成果をあげています。しかし、課題として挙げられたことを改善するには、「誰が誰に対して、何を、どのように、どこまで発信するのか」などを明確にすることで、より良質な教育活動を展開できると考えました。そして、こうした活動をスパイラルに積み上げていくことが、「磨く」ということです。また、「入力」（受信）したことをいかに「出力」（発信）できるかが重要であり、それが「社会で生きてはたらく力」につながるものと考えます。
- ② 自己決定を繰り返すことで、主体性は身につけていきます。この「繰り返す」ことの先にあるものが何かと考えたとき、「自己実現」があります。未来を意識させ、生徒自身の持続可能なウェルビーイングの追求をめざします。

また、時には「失敗」を許容し、試行錯誤させながら支援や指導することも大切です。その後、成功体験を増やすことで、自己実現をより明確に実感させたいです。とりわけ、この過程には、「自己分析力」「見

通す力」「調整力」「行動力」「実行力」を身に付けることなどが包括されており、生徒ひとりひとりの「自己実現」とは自己決定の繰り返しによる集大成であると考えています。今年度は、短期目標として各学年段階、中期目標として15歳の姿、長期目標として卒業後に社会貢献している自分の姿である「未来史」を描けることをめざします。

【補足】

「発信する力」を磨くにあたって、支持的風土を醸成することが必須であり、良質な人間関係の構築には「対話とリスペクト」の姿勢が欠かせません。また、インクルーシブ教育の理念を取り入れながら他者意識に立ち、望ましい社会参画ができる資質・能力を育みたいと考えます。ここでいう「自己実現」とは、将来、社会貢献できる「ありたい自分の姿」のことであり、発達の段階に応じてその姿は変容していくものと捉えています。そのため、受信から発信までの過程をマネジメントする力（見通す力）を段階的に身に付けさせ、キャリアをデザインできることがゴールです。具体的には、それぞれの「未来史」が描き続けられ、ウェルビーイングの追求をめざします。このため、本校では個々の生徒が資質・能力を中学校3年間で、最大限伸ばせるよう支援します。本人、保護者、学校の三者が15歳の姿を共通にイメージし、令和7年度は「あなたは、どうしたい？」から「あなたは、どうありたい？」へシフトします。

5 経営方針

【概要】

- 自他ともに生命を最優先します。
- 生徒ひとりひとりの自己実現を支援します。
- 卒業後の人生において役立つ「社会で生きてはたらく力」を意識し、実生活・実社会と直結した授業づくりをめざします。
- 日常の業務が教職員としての研修となり、次世代育成へ尽力します。
- コンパクト・スクールを実現し、支え合う組織の強化を図ります。
- 常に「対話とリスペクト」を意識し、支持的風土の醸成に努めます。
- 校区小学校、町内中学校との緊密な連携を図るとともに、学校・家庭・地域がともに教育の主体者であることを自覚できるよう（社会に開かれた教育課程）、コミュニティ・スクール等の取組を進めます。
- 「自走する組織」として教職員が主体性を発揮するとともに、教職にやりがいを感じる働き方改革を推進します。
- ※ コンパクト・スクールは本校独自の呼称です。あらゆる教育活動を焦点化し、校務の質向上を図った働き方改革を進めている学校のことです。

6 経営方針を具現化するための留意事項

(1) 日常の業務を通じて、教職の基礎・基本を学ぶことができる学校の在り方を継続します。

①最新の教育情報を共有し、活用します。

- ②学習指導要領など、常に根拠に基づいた教育活動を推進します。
 - ③「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現をめざした研修を継続します。
 - ④カリキュラムマネジメントに努め、「教育課程」を軸に働き方改革を進めます。
- (2) 資質・能力の育成を確実なものにするため、次の4点を徹底します。
- ①教師の「指導性」を再確認しつつ、「伴走者」として役割を担います。
 - ②本校の実態を踏まえ、基本担任を定めながらもチームで支える学年担任制を進め、ガイダンスとカウンセリングの機能の充実や教員の働き方改革等、課題解決を進めます。本校で言う「学担」は学年担任を意味します。
 - ③生徒の自己実現をめざし「あなたは、どうありたい？」の言葉がけを広げます。
 - ④あらゆる場面で「対話とリスペクト」を意識し、学級・学年はもちろんのこと、学年縦断的な取り組みで支持的風土を醸成する取組みを進めます
- (3) 公立学校としての役割と責任に立脚し、一人一人の教職員の資質・能力の向上（学び続ける教師）を図ります。
- ①今日的な教育課題の理解と効果的な実践のため、必要性を認識した研修の一層の工夫・実施に努めます。
 - ②法的な根拠等についての整備に努めます。
 - ③ともに支え合うことを目指した組織改編を今後も生かすこと、また検証し改善することに努め、よりよい組織の醸成を目指します。
- (4) めざす資質・能力を効果的に育成するため、ICT機器を効果的に活用するとともに、教育活動を徹底して重点化・焦点化し、「コンパクト・スクール」を実現し、教育効果の最大化を図ります。（教育課程を軸とした働き方改革を一層進めます。）
- (5) 全ての領域で、インクルーシブな学校運営モデル事業と関連づけます。
- (6) 小・中学校9年間で育む資質・能力の育成に向けて、小中連携グランドデザインの実施を進めます。
- (7) 「社会に開かれた教育課程」を実現するため、本校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントに努めます。
- (8) 範を示すため、学校（教職員）からの「発信」を意識します。また、良質な取り組みは報道等にも紹介し、適切な評価を受けることで、やりがいや働きがいを実感させます。
- (9) 学校（教室）外に学びの場を求める生徒への対応は、最新の動向を踏まえた適切な対応を検討し、集団適応を進めます。教育業界に根付いている従前の見方や考え方を改め、「本人・保護者・学校の三者が決してあきらめないこと」を合言葉に支援します。こうしたことを踏まえて、本校は校内支援センター（ワークスペース）を設置しています。
- (10) 専門職である質の高い教師集団を構築します。校内的には、コンパクト・ゼミ（旧ミニ研修）を積極的に推進するとともに、教育実習や高校生のインターンシップを受け入れ、学校文化の継承と後進育成をめざします。